

第10回

安吾賞

新潟市ゆかりの作家である坂口安吾は、文学をはじめ多くの分野において何事にも一生懸命に挑み続ける人であった。安吾の精神を具現しさまざまな分野で挑戦し続けることにより、わたくしたち日本人に喝を与えた個人または団体を表彰する「安吾賞」。挑戦者を応援する新潟市は、第10回の安吾賞受賞者として、作家・佐藤優氏を選出した。

授賞式

10th
ANNIVERSARY



写真：林忠彦



写真：永井浩

特別講義

佐藤優【知の教室】

「知的野蛮人になりなさい。
世界のリアルを読み解くために」



観覧申込
受付中

■申込方法◎往復はがきで申込。1枚2名まで。参加希望人数（2名まで）、代表者の郵便番号、住所、氏名、電話番号を記入し、下記まで郵送。

〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町 602-1 新潟市文化政策課内 安吾賞事務局 ■応募締切◎3/4(金)必着 ■定員◎800名(応募多数の場合抽選)

■問い合わせ先
安吾賞事務局
(新潟市文化政策課内)
TEL.025-226-2563



8:00~21:00・年中無休

【安吾賞 10 年の軌跡展】

3/17(木)~3/23(水)
8:00~23:00 (3/17は 10:00~)

NEXT21 / 1F アトリウム
新潟市中央区西堀通6番町
<入場無料・申込不要>

Ano
Ano Awards
新潟市

安吾のリアリズムが不可視の事態を見通す。
本当の教養とは何か、世に問いたい。

第10回 安吾賞

佐藤優

作家・元外務省主任分析官



【さとう・まさる】 1960年、東京都生まれ。埼玉県大宮市(当時)で高校卒業まで育つ。県立浦和高校卒業後、同志社大学神学部に進学。同大学院神学研究科修了。在学中は組織神学、無神論について学ぶ。85年外務省入省。在ロシア連邦日本大使館勤務等を経て、本省国際情報局分析第一課主任分析官として、対ロシア外交の最前線で活躍。また、外交官としての勤務のかたわら、モスクワ国立大学哲学部の宗教史宗教哲学科の講師(弁証法神学)や東京大学教養学部非常勤講師(ユーラシア地域変動論)も務めた。2002年、背任と偽計業務妨害罪容疑で東京地検特捜部に逮捕、起訴され、以後東京拘置所に512日間勾留される。05年に執行猶予付き有罪判決。09年6月に最高裁で上告棄却、執行猶予付き有罪確定で外務省を失職。13年6月に執行猶予期間を満了し、刑の言い渡しが効力を失った。05年に発表した『國家の罫』(新潮文庫)で第59回毎日出版文化賞特別賞を受賞。翌06年には『自壊する帝国』(新潮文庫)で第5回新潮トキュメント賞、第38回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。『獄中記』(岩波現代文庫)、『宗教改革の物語』『危機を克服する教養』(角川書店)など著書多数。



写真:永井浩



新潟市特別賞

外山陽子

ダンス指導者



【とやま・ようこ】 1943年、柏崎市生まれ。新潟大学教育学部卒業後、新発田市の高校へ赴任、ダンスを始める。第1回目に出場した大会では最下位であった。その後、新潟中央高校へ転勤。同校のダンス部を率いて文部科学大臣賞を始めNHK賞、神戸市長賞、等々数多く受賞。世界大会でも総合優勝する実績を残した。平成17年には新潟市スポーツ大賞を受賞。新潟市と新発田市で幼・小・中のためのダンス啓発事業「劇場で踊ろう、ダンスキッズ大集合！」を展開中。女子体育連盟の会長として、幼・小・中・高・特別支援・生涯体育の研修会や講演会を開催して会員の資質向上をめざしている。新潟県知事表彰(平成16年)、文科省生涯スポーツ功労賞(平成27年)等の表彰を受けている。新発田市の幼小中高の子供達のダンスチーム「しばたパフォーミングキッズ」代表として活動中。

坂口安吾年譜



生誕 明治39年(1906)10月20日、新潟市に生まれる。学校に馴染めず、ひとり日本海に面する浜辺に寝ころんで思索した。荒漠たる風と日本海の風景は安吾文学の原風景といえる。

余は偉大なる落伍者となつていつの日か歴史の中によみがえるであろう 大正11年、落第が決定的となり東京の豊山中学3年に編入。この時、新潟中学校の机のふたに「余は偉大なる落伍者となつていつの日か歴史の中によみがえるであろう」と彫ったという。卒業後、下北沢の分教場の代用教員となり自然の中に悪童たちと遊んだ。この頃から求道の厳しさに対する憧れが強まる。

求道者、安吾 大正15年、東洋大学印度哲学倫理学科に入学。悟りを開くため多くの哲学宗教書を読み、睡眠4時間という厳しい修行生活を1年半続

け神経衰弱に陥ったが、それを梵語、パーリ語、チベット語、フランス語、ラテン語などを猛然と勉強することにより克服した。

文壇デビュー 昭和6年、『木枯の酒倉から』、『ふるさとに寄する讃歌』、『風博士』を発表、文壇デビューを果たす。失恋の痛手を克服する決意のもと執筆した長編『吹雪物語』は酷評され、安吾は自分に絶望し、転居を繰り返し自らを孤独の淵に置きながら、どん底の淪落の生活を送る。しかし『紫大納言』(S15)、『木々の精、谷の精』(S15)などの新境地をひらく。

小菅刑務所・ドライアイス工場・軍艦に見いだす必然の美 昭和17年、国粹主義の時代、大胆な『日本文化私観』を発表し、伝統文化を鵜呑みにすることの欺瞞を指摘した。

墮ちることにより眞実の救いを発見せよ 昭和21年、敗戦後の昏迷の中でいち早く戦後の本

質を洞察し、4月『堕落論』、6月に『白痴』を発表。この2編は、若者を中心に戦後虚脱していた日本人に強い衝撃を与えた。戦前戦中の倫理觀を捨て新たな生き方を指示する革命的宣言は希望の書となり、『堕落論』によって戦後の日本が再スタートした。昭和22年『風と光と二十の私と』、『桜の森の満開の下』、『不連続殺人事件』、『青鬼の禪を洗う女』を発表。戦う安吾 昭和25年、『安吾巷談』を連載し、戦後のタブーに挑戦する。昭和26年国税局と税金滞納、差押えをめぐって『負ケラレマセン勝ツマデハ』を発表。税金闘争をひとり戦い抜き、同年9月には競輪不正事件で自転車振興会を相手どり戦う。『夜長姫と耳男』(S27)発表。急逝 昭和30年(1955)2月17日、古代史の雄大な構想とともに、原風景に由来する創造活動に意欲を燃やし始めた矢先に、桐生の自宅で脳溢血で急逝した。享年48。

第10回 安吾賞 授賞式 & 佐藤優 特別講義

2016年3月16日(水) 18時～りゅーとぴあ・劇場 新潟市中央区一番堀通町3-2

◎問い合わせ先：新潟市文化政策課内【安吾賞事務局】 TEL.025-226-2563

<入場無料 要・事前申込>

新潟市 安吾賞

A
Ango
ANGO Awards

